

生ごみたい肥化容器等購入費補助金交付者に対するアンケートの回答結果について

令和7年3月実施

アンケート対象

令和5年度に八千代市生ごみたい肥化容器等購入費補助金制度を利用し、補助金の交付を受けた方

37名

アンケート送付数	37
アンケート回答数	28
回答率	75.68%

問1 補助金制度はどのように知りましたか。（3つまで回答可）

回答数	28
未回答数	0
回答率	100.0%

	延べ回答数	割合
1 広報やちよ	2	4.7%
2 市のホームページ	18	41.9%
3 八千代市民便利帳	1	2.3%
4 容器等の販売店（通信販売除く）	0	0.0%
5 八千代市民祭のリサイクルフェア	2	4.7%
6 ごみ減量学習会等の講座	1	2.3%
7 知人・友人	7	16.3%
8 テレビ・ネットショップ等による通信販売	9	20.9%
9 その他	3	7.0%
計	43	100.0%

問2 補助金の額に満足していますか。

回答数	28
未回答数	0
回答率	100.0%

	回答数	割合
1 適当	19	67.9%
2 少ない	9	32.1%
3 多い	0	0%
計	28	100.0%

問3 補助金制度がなくても容器等を購入しましたか。

回答数	28
未回答数	0
回答率	100.0%

	回答数	割合
1 購入した	13	46.4%
2 購入しなかった	15	53.6%
計	28	100.0%

問4 補助金制度を活用し、購入した容器等は何ですか。また、その数はいくつですか。

回答数	28
未回答数	0
回答率	100.0%

	回答数	割合
1 コンポスト容器（1基）	3	10.7%
2 EM容器（1基）	2	7.1%
3 電気式生ごみ処理機（1基）	23	82.1%
4 コンポスト容器（2基）	0	0.0%
5 EM容器（2基）	0	0.0%
6 コンポスト容器とEM容器（各1基ずつ）	0	0.0%
計	28	100.0%

問5 購入した容器等を使用し、生ごみを処理していますか。

回答数	28
未回答数	0
回答率	100.0%

	回答数	割合
1 積極的に使用しており、生ごみはほとんど容器等で処理している	8	28.6%
2 使用しており、生ごみは容器等での処理と、可燃ごみでの排出を併用している	20	71.4%
3 あまり使用していないため、生ごみはほとんど可燃ごみで排出している	0	0.0%
4 現在は容器等を使用していない	0	0.0%
計	28	100.0%

問6 問5で1～3を選択した方にお伺います。割合はどのくらいですか。

回答数	28
未回答数	0
回答率	100.0%

(1) 容器等で処理している割合

(2) 可燃ごみで処理している割合

	回答数	割合
1 (1) 10% (2) 90%	1	3.6%
2 (1) 20% (2) 80%	2	7.1%
3 (1) 30% (2) 70%	4	14.3%
4 (1) 40% (2) 60%	1	3.6%
5 (1) 50% (2) 50%	7	25.0%
6 (1) 60% (2) 40%	2	7.1%
7 (1) 70% (2) 30%	2	7.1%
8 (1) 80% (2) 20%	1	3.6%
9 (1) 90% (2) 10%	8	28.6%
計	28	100.0%

問7 問5で4を選択した方にお伺いします。容器等の使用期間はどのくらいでしたか。

回答数	0
未回答数	28
有効回答数	0
有効回答率	0%

問8 問7を回答した方にお伺いします。選択した使用期間となった理由はなんですか。

回答数	0
未回答数	28
有効回答数	0
有効回答率	0%

問9 たい肥はどのように利用していますか。

回答数	27
未回答数	1
回答率	96.4%

	回答数	割合
1 家庭菜園等の肥料に使う	9	33.3%
2 庭にまく	2	7.4%
3 可燃ごみに出す	15	55.6%
4 知人・友人に提供する	0	0.0%
5 その他	1	3.7%
計	27	100.0%

問10 容器等の使用前と使用後で、1週間あたりの可燃ごみの量は変わりましたか。

回答数	28
未回答数	0
回答率	100.0%

	回答数	割合
1 減った	20	71.4%
2 ほとんど変わらない	8	28.6%
3 増えた	0	0.0%
計	28	100.0%

問11 問10の回答に関して、容器等使用前の1週間あたりの可燃ごみの量は何Lくらいですか。

回答数	28
未回答数	0
有効回答数	28
有効回答率	100.0%

	回答数	容量合計	割合
1 約10L	1	10L	3.6%
2 約20L	3	60L	10.7%
3 約30L	4	120L	14.3%
4 約40L	9	360L	32.1%
5 約50L以上	11	840L	39.3%
計	28	1,390L	100.0%

※5（約50L以上）の容量合計については、回答された容量の合計値とする。

問12 問10の回答に関して、容器等使用后の1週間あたりの可燃ごみの量は何Lくらいですか。

回答数	28
未回答数	0
有効回答数	28
有効回答率	100.0%

	回答数	容量合計	割合
1 約10L	4	40L	14.3%
2 約20L	5	100L	17.9%
3 約30L	8	240L	28.6%
4 約40L	4	160L	14.3%
5 約50L以上	7	460L	25.0%
計	28	1,000L	100.0%

※5（約50L以上）の容量合計については、回答された容量の合計値とする。

※問11の容量合計と比較すると390L減少。減容率は約28.1%となった。

問13 現行の補助金制度に関して、何かご意見や改善点などがあれば教えて下さい。

(例) 申請書の修正時、事務に負担を感じた。交付決定までに時間がかかったので、もっと早く買えるようにして欲しい。

回答数	14
未回答数	14
回答率	50.0%

- ・ 購入してから、思いの外、容器が大きく、我が家の台所に置くスペースが無く、結局、不便な所に置いてます。
- ・ 市民への普及活動が乏しい。
制度を積極的に利用してゴミを減らして欲しいのか、他の行政と遜色ないように、制度を輸入したパフォーマンスが目的で、制度だけラインナップして、実のところは市の支出を抑えるために、利用はして欲しくないのか、方向性が見えない。または、どちらかという後者の意向は拝察できる。
- ・ もっとわかりやすく内容が確認できるようにして欲しい。
新築の家で使えるように引越し（市内）前に購入し申請をしたので、手続きが非常に煩雑であったため、より簡素化していただけるとありがたい。
- ・ 申請するのが色々大変でしたが、補助金制度はとても有り難いです。申請の関係で、テレビショッピングから買えなく、電気屋さんで、取り寄せて購入したので少し高くなりました。
- ・ 申請に少し手強い負担を感じました。各市によってやり方が随分違うものだと思います。もっと簡単な方法をご考案いただければと思います。
- ・ 家庭隣接地で菜園をしており、可燃ゴミ量の削減と堆肥化に大変寄与しています。できれば更に補助額の増額が有ればと期待しています。
- ・ 制度が調べないと出てこないのあまり認知されていない気がします。申請が分かりにくかった。ハイブリッド式の処理機は手軽で匂いも少ないため室内に置いて気軽に長続きでき、肥料としても利用できるなど利点が多いのですが、価格が高いのがネックなので補助上限額を上げて推奨して欲しいです。
- ・ 生ゴミをそのままゴミに出すのは無駄が多いので、行政が積極的に生ゴミ処理機に補助金を出し、使用の拡大を図るべきである。
- ・ 対象商品であれば購入後でも申請出来るようにならないのかが理解できない。良いものを普及させるのになぜ事前申請でなければならないのか。こういう非効率な事をやっているから良い人材が公務員にならないのでは無いか。制度の目的をよく考えて欲しい。
- ・ 申請書の書き方が無く少し悩んだ箇所もあったので、見本が欲しかった。
- ・ インターネットで購入する場合の手続きがわかりずらかったので、店舗購入にした。
- ・ ベルクのような種類が豊富なりサイクル場所がもっと増えるといい。
- ・ 購入前の申請と、購入・設置後の申請と二度も来庁するのが手間だった。
- ・ 可燃ゴミが減ったのは、コンポストの他にオムツを使わなくなったことありますが、1週間に20Lを2回出せば良くなりました。

問14 ごみの減量のために心がけていることやアイディアなどがありましたら教えてください。

(例) 食べ物を残さない。詰め替え商品を買う。

回答数	17
未回答数	11
回答率	60.7%

- ・食品トレーなど近くのスーパーで回収していただけるものは、すべて回収に出している。
- ・献立を考える時、冷蔵庫の中を見てから考える。食べ切る分量を把握する。
日頃から、料理レシピを集め、色々バリエーションできるようにする。
日用品も最後まで管理できるか、最後まで使い切れるか考える。詰め替え用がある物を買う。
- ・洗剤などは詰め替えを買う。親しい友達くらいなら、ギフトであっても包装はしない。
立派、頑丈な空き箱などは、直ぐに捨てずに、何かに使えないか考えてから捨てる。
Tシャツなどは、破棄する前に、カットして雑巾として使い切ったあとに処分する。
冷蔵庫は、奥まで見えて中が確認出来るように、パンパンに入れない。
複数をセットで買って長期で使うものは、冷蔵庫に貼ったマグネットボードに残数を管理する。
- ・食べ物はあまり残さないようにしています。
- ・食品は半端に残さず使いきる。お腹がすいている時に買物に行かない。迷った時は買わない。□
必要なものだけを買う。
- ・堆肥化が早く、うまくいくようにいつもチェックしています。
- ・余分な食材を買わない。紙パック、トレーなどリサイクルできるものはリサイクルに出す。
- ・ハイブリッド式の処理機はコーヒーかすをフィルターごと分解できるのでそのまま入れて畑や庭に撒いてます。
過剰包装の商品が多いので減らしてほしい。肉はトレーよりもフィルム包装を買う。
通販はなるべくまとめて発注して梱包ゴミを減らそうとしていますが、分割して送られてきたりするのであまり効果は出ていない気がします。
- ・詰め替えなど。
- ・生ゴミのディスポーザルを戸建てでも出来るようにすること。
肉、魚などの発泡トレーの家庭内減量化器具の開発と普及。
ゴミ収集スポットごとのゴミ量を見える化し、スポットごとに減量された場合には自治会などを通じて表彰したり、市から報奨金を出したりしてインセンティブを与える。スポットの構成員(住人)同士の連帯感も生まれ災害時などのサバイバル向上にも繋がってくるなどの副次効果も期待出来る。
- ・余分に買わない。野菜の皮はなるべく食べる。詰め替え商品を使う。
- ・皮もなるべく食べるようにする。トレー、玉子パックは回収ボックスへ持っていく。
- ・野菜くずを出さないようにしている。詰め替え商品を購入する。紙類は雑紙としてリサイクルする。フリマアプリを利用する。
- ・中学生の制服リサイクルなど開催すれば、サイズが小さくなって中3などで新たに体操服や制服を買い替える必要がなくなる。そしてゴミも減ります。
- ・食べ物を廃棄しない。
- ・食品ロスをしない。傷んでいる部分だけを小さく切り落とすようにしている。
- ・プラスチック容器の日用品をできるだけ購入しない。洋服を必要以上に購入しない。

(総評)

- ・アンケートの回答率は約75%であった。
- ・回答者の5割の方が、補助金制度がなければ容器等は購入していないと回答した。
- ・回答者の約7割以上の人が、容器等の使用前と使用後を比べて、可燃ごみの量が減ったと回答した。また、その減容率は約28%であった。
- ・補助金制度を市のホームページにて知ったと回答した方が回答者の4割に上った。
- ・補助金制度を市民にもっと周知した方が良いという意見が複数あった。